

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	36人	算数	36人	理科	36人
第5学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

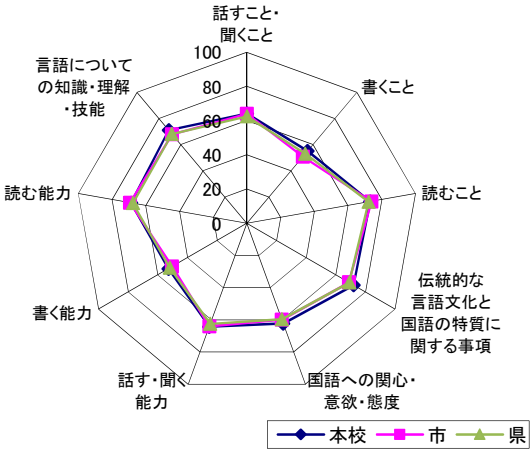
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.2	64.0	62.5
	書くこと	55.2	50.9	53.1
	読むこと	73.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.2	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.2	64.0	62.5
	書く能力	52.9	50.4	52.0
	読む能力	68.7	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	71.0	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

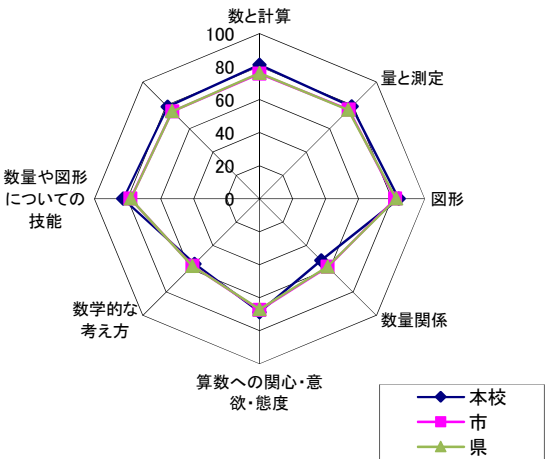
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○話合いの内容を理解し、大切な所を注意しながら聞き取ることができている。 ●話題に沿った自分の立場と理由を考えて話すことに課題が見られる。	・聞くことの領域では、学んだことを生かして問題が解けているので、今後も話合い活動を充実させながら力を伸ばしていく。 ・話題に沿った自分の立場と理由を考えて話すことに課題が見られるので、話す順序を明確にしながら自分の意見が言えるよう、日頃から話す力を確実に養っていく。
書くこと	○平均正答率は、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ○一番書きたいことを明確にしながら文章を書くことができています。 ●条件にあった記述式の設問において、無答が多い。	・記述式問題で無答が見られるので、自主学習での日記指導や、授業での振り返りの時間を活用して、書くことの習慣化を図る。 ・指定された長さ、段落構成などの条件がある作文指導を行い、原稿用紙の使い方や主語・述語を理解できるように指導し、決められて文字数で自分の言いたいことが書けるような練習を繰り返し行いたい。
読むこと	●平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取ることができている。 ●会話文や叙述から場面の様子を読み取ること、段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ることに課題がある。	・本を読む習慣をしっかりと定着させるため、家庭学習の音読に継続的に取り組ませていく。また、図書室の利用や読書ファイルの活用など、読む意欲を高められるよう指導の充実を図る。 ・授業では、文章中に書いてある言葉から読み取る力と、文章を基に想像しながら読み取る力を身に付けさせる。一人一人のつまずきを把握しながら、読解力に関する問題を意識して取り入れ、読む力を養っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市の平均を3ポイント程度上回っている。 ○漢字の読み書きについては、市平均とほぼ差がなく定着している。 ○ローマ字は、市の平均を20ポイント以上上回っており、非常によく定着している。 ●言葉の学習において、主語と述語の文の構成について、課題が見られる。 ●国語辞典の使い方、言葉が載っている順を調べることに課題が見られる。	・漢字の読み書き、ローマ字の読み書きなどの基礎学力は定着してきているので、引き続き、繰り返し練習させたい。特にテストなどで間違えた漢字を自主的に練習できるように声掛けをしていく。 ・国語辞典は、学校に自分の辞書を置いておけるように家庭にも呼び掛け、授業中に活用できる場を多く持てるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.1	75.8	76.1
	量と測定	79.0	76.5	76.0
	図形	84.3	82.1	82.7
	数量関係	52.8	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	68.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	55.7	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.6	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	78.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

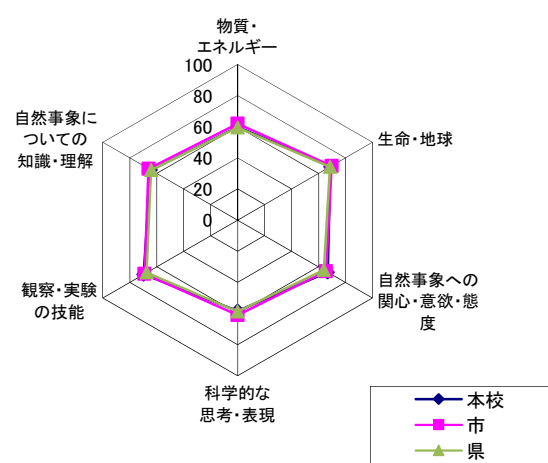
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率は、市の平均正答率より5.3ポイント高い。 ○小数の仕組みや相対的な大きさについてよく理解しており、正答率も高い。 ●2位数×2位数の工夫した計算のしかたを説明する設問では、市の平均正答率よりも12ポイント低く、課題が見られる。 ●分子が1の分数が何個で1になるかを求める設問では、市の平均正答率よりも9.7ポイント低い。	・朝の学習の時間を活用して、苦手な単元を重点的に復習し、基礎基本を定着させていく。 ・かけ算のきまりについて「交換法則」「分配法則」「結合法則」を理解しているか復習の時間を設け、確実な定着を図る。 ・分数の問題は、線分図を用いて視覚的に分数のしくみを確認し、理解につなげていく。
量と測定	○正答率は、市の平均正答率より2.5ポイント高い。 ○はかりの目盛りの読み方や身近にあるものの重さの単位についてはよく理解できている。 ●時刻や時間を求める設問での課題が見られる。特に2つの時刻を比較して、その間の時間を求める設問での正答率は、市の平均正答率よりも4.8ポイント低い。	・時刻と時間に関しては、時計の目盛りと数直線の目盛りを対応させた図を使うことで、時間の流れを視覚的に確認させてから問題に取り組ませていく。また日常の様々な場面で時刻を意識させ、時間の計算を取り入れていく。 ・はかりの問題では、一番小さい目盛りがいくつを表しているかを確認してから、重さを読み取るよう指導する。
図形	○コンパスで正三角形を作図する設問の正答率は89.1%で、市の平均正答率を8.1ポイント上回っており、三角形の定義やコンパスで作図することについて十分理解ができている。 ●円と球について市の平均よりも6.0ポイント下回っている。円の直径を表す設問での誤答が多く、課題が見られる。	・円と球については、円の直径、半径の長さから正しい図がイメージできるように、具体物を使って形を捉えられるようにしたり図を描かせる活動を取り入れたりと、知識や技能の定着を図っていく。 ・授業で扱う時期は限られているため、宿題の内容を工夫し、プリントやドリル等で復習する機会を意図的に設けるなどし、習熟できるように指導する。
数量関係	○「ぼうグラフと表」では、提示された条件に該当する項目を選択したりグラフから読み取れることを説明したりする設問での正答率が、市の平均正答率を上回っている。 ●「□を使った式」では、市の平均正答率を下回っている。文章と線分図の関係を読み取り、立式することに課題が見られる。	・「□を使った式」については、問題場面を数直線を使って表現する活動を取り入れて、問題文から立式することに加えて、□を使うとどのような式になるのかについても指導し、式と文章問題の関係を理解できるように指導する。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.8	61.9	59.4
	生命・地球	68.8	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.7	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	58.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	69.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	64.5	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は、市の平均正答率より2ポイント低い。 ○「日光を集めて火をおこすことができる道具を推測する」設問での正答率は、市の平均正答率より、13ポイント高かった。 ○物の重さでは、物の形を変えると重さはどうなるかを説明する設問では市の平均正答率より、8.8ポイント高い。 ●磁石の性質では、全ての設問で市の平均正答率を下回っている。特に磁石の性質を理解していないため、実験の結果からゼムクリップの磁性について指摘するという設問の正答率が、市の平均正答率より10.9ポイント低い。	・実際に操作を行った実験に関しては、定着が図れている。引き続き児童が自分で操作してできる活動を取り入れていく。 ・磁石の性質では、磁石の極の性質など、基本的な内容の理解が不十分である。基礎事項は徹底して指導していく。
生命・地球	●平均正答率は、市の平均より1ポイント低い。 ○身近な自然の観察(ダンゴムシの観察のしかた)についての設問は、市の平均正答率より10.5ポイント高い。 ○ホウセンカの正しい種のまき方や世話の仕方に関する設問での正答率は、市の平均正答率が7.1ポイント高い。 ●昆虫のからだのつくりについての設問の平均正答率は、市の平均正答率より、13.6ポイント低い。 ●実験の結果から他の班が方位磁針の操作をどのように間違ったのか指摘する設問での平均正答率は、市の平均正答率より11.2ポイント低い。	・身近な自然の観察では、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物を観察することによって、知識や技能を身に付けることができていたので、引き続き、実際に生き物を観察する時間を設けて指導をしていく。 ・ホウセンカの種のまき方と世話の仕方についても、実際に種をまいて観察を続けることで、観察の仕方を身に付けることができていたので、引き続き指導をしていく。 ・昆虫の体のつくりの学習では、観察をすることは意欲的にできるが、体のつくりについての理解は不十分であるので、観察した結果をしっかりとめ、知識として身に付くよう指導していく。 ・太陽と地面の様子では、実験前に方位磁針の使い方を指導することを徹底する。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」と回答した児童は94.6%、「毎日、同じくらいの時こくにねている」と回答した児童は89.2%、「早ね、早起きを心がけている」と回答した児童は81.0%で、生活習慣に関わる質問項目での肯定的回答の割合は、いずれも8割を超えており、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことが分かる。今後とも、学校と家庭が連携して児童の成長を見守りながら生活習慣の指導に取り組んでいきたい。

○児童の約9割が「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」と回答しており、思いやりの気持ちを持って友達と仲良く生活していることが分かる。学級活動や異学年と交流できる特別活動の充実が図られている成果と考えられる。今後とも、互いを理解し友達のよさが伝わる活動などを実施して自尊感情の育成に努めていきたい。

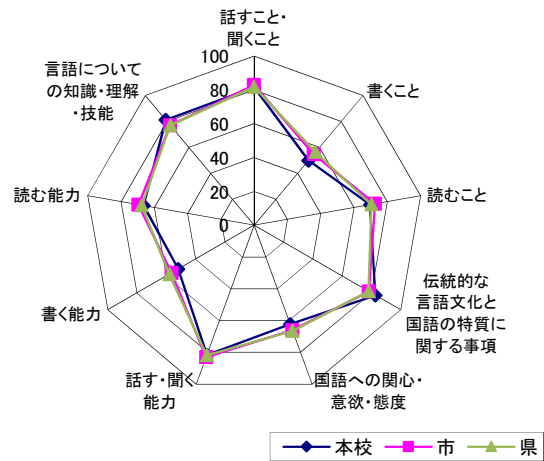
●「家で授業の復習をしている」と回答した児童は54.0%、「家で、学校やじゅくのきめられた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童は51.3%と、どちらも半数程度となっており、家庭学習への取組としては課題が見られる。家庭学習の仕方や計画の立て方など、家庭学習の指導を行う期間を設けて保護者に取り組みの確認を依頼するなど、家庭と連携を図りながら、学校で学習した内容の定着を図っていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童は86.5%、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」と回答した児童は86.5%と共に8割を超えているが、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した児童は70.2%、「むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる」と回答した児童は59.4%であった。学習の中で疑問や課題を感じることもあるが、問題の難易度によって最後まで追求しようとする意欲に違いがあると考えられる。授業で学習の基礎・基本を押さえると共に、基礎・基本の内容をさらに発展させた問題にも段階を踏んで取り組ませたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.6	82.9	81.8
	書くこと	50.0	54.8	56.5
	読むこと	69.6	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.8	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.2	66.0	66.4
	話す・聞く能力	81.6	82.9	81.8
	書く能力	51.9	56.3	57.9
	読む能力	66.4	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	81.4	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

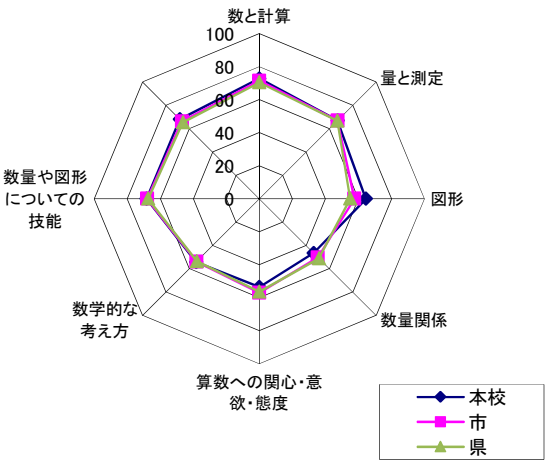
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめる記述式の設問での正答率は、市の平均正答率よりやや高い。 ●平均正答率は、市の平均と比べて1.3ポイント低い。話の内容を聞き取ったり、話し方の工夫を探したりする問題での正答率が、市の平均を若干下回った。	・話したことをまとめたり集約したりできるよう、メモを取りながら意見や考えをまとめられるよう指導していく。2学期の「話すこと・聞くこと」の学習でも、自分の考えをまとめ伝える活動があるので、相手が話をする際、どんなことを言ったのかをメモをさせ、注意深く聞く力を高めていく。
書くこと	●市の平均正答率と比べて、4.8ポイント低い。 ●アンケート調査を基に自分の考えをまとめる設問では、書くときの条件に従って作文をする設問での誤答が見られた。無答率も高い。 【校内の平均正答率(市の平均正答率との比較)】 ・指定された長さで書く・・・51.1%(−8.1) ・2段構成・・・46.8%(−2.6) ・自分の考えが明確で具体的な文章・・・55.3%(−9.6)	・分かりやすく簡潔な文章を書くことに加え、自分の考えを書くことができるよう、条件を指定して作文をさせたり、学習の振り返りを書かせたりすることで、書く習慣を身に付け、書くことへの自信を高められるよう指導していく。また、アンケートやグラフなどの情報を読み取る力も必要になってくるので、読解力指導や他教科の学習との関連も図っていく。
読むこと	○場面の様子と登場人物の気持ちを考え、文中の表現の工夫について読み取る設問では、市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ●平均正答率は、市の平均と比べて3ポイント低い。説明文の問題では、全ての設問で、市の平均正答率を下回っている。	・説明文では、文中の表現の前後関係に着目させ、言葉のつながりを考えたり、理由・根拠を探したりすることができるよう、丁寧な読み取りを行っていく。そのために、文章の構成を整理することや意味調べを行い、内容理解を深めるとともに、読み取る力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市の平均と比べて4.4ポイント上回っている。漢字の書き取り問題での正答率は、全て市の平均を上回っている。 ●漢字辞典の使い方を説明する設問では、部首を誤解していたり、総画数を取り違えていたりする誤答が見られた。平均正答率も、市の平均より5.2ポイント低い。	・漢字辞典の使い方の課題として、部首の誤解と総画数の取違いが挙げられる。新出漢字を学習する際、漢字ドリルに説明されていることを丁寧に確認していく必要がある。部首名を覚えていない児童も多いことから、部首名を取り上げて指導をしていく。また、国語辞典の活用も図り、語彙力を高める指導を工夫、充実させていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	71.5	70.4
	量と測定	67.0	67.0	66.9
	図形	64.6	57.6	55.0
	数量関係	46.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	53.5	57.0	56.3
	数学的な考え方	54.2	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	68.3	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	68.1	66.3	65.4



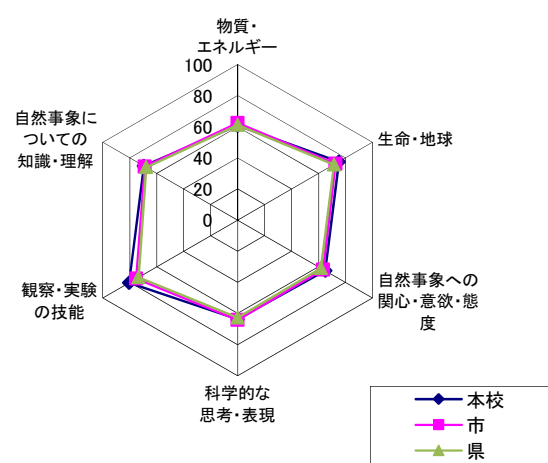
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市と比べて1.4ポイント高い。 ○小数や分数の大小関係や小数の仕組みはいずれも90%を超える正答率で、よく理解できている。 ○小数と整数のかけ算、わり算は、市の平均を上回ってよくできている。朝の学習等を活用して、計算練習に取り組んだ成果と思われる。 ●小数を使った重さの単位換算と倍とわり算の文章問題にあった式を選ぶ設問での正答率が市の平均を8ポイント程度下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、授業や朝の学習の時間を利用して、計算練習に取り組ませ、基礎・基本を定着させていく。 ・日常生活の中で折に触れて、重さや長さの単位を換算させる場面を設定し、力を育てていく。 ・特に、4年生までの学習の復習を取り入れながら、つながりを大切にしたい指導を工夫していく。 ・わり算の文章問題では、数直線を用いて立式できるように指導しているが、今後も力を入れていく。
量と測定	○市の平均正答率と同じである。 ○分度器を使って角度を測る設問での正答率が高い。 ○5等分した長方形の面積から一辺の長さを求める問題の正答率も市を10.6ポイント上回っている。 ●教科書の表紙のおよその面積を選ぶ設問での正答率が25.5%で、市を13.3ポイント下回っている。	・今後も分度器を活用する問題を定期的に解かせ、正確に測れる力を育てていく。 ・日常生活の中で、物のおよその面積がどれくらいかなどのやり取りをし、大きさを想起させる場面を設定するようにする。 ・同じような問題をたくさん解かせることで、定着を図るようにする。
図形	○平均正答率は、市と比べて7ポイント高い。 ○四角形の対角線の性質について答える設問や直方体のある辺に垂直な辺を求める設問での正答率も高い。 ○ひし形の作図の設問でも市の正答率を4.3ポイント上回っている。 ●平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する設問では、理由の説明が不十分な回答が見られた。	・今後も正確な作図ができるように、コンパスや定規の正しい使い方に力を入れていく。 ・それぞれの図形の特徴や性質を理解させ、詳しく説明できる力を育てるために文章で書かせる場を意図的に設定する。
数量関係	●平均正答率は、市と比べて3.7ポイント下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問での正答率が高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題になると正答率がとても低くなる。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、理由を説明する設問での正答率が低く、無回答も多く見られた。	・伴って変わる2つの数量の関係を式に表すいろいろな問題に継続的に取り組ませることで、□や○を使った式に表せるようにさせる。 ・問題を読み取り、理由を説明する力をつけるために、日常生活や他教科の学習の中でも、自分の考えを筋道立てて説明する機会を多く設ける。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.8	62.4	61.1
	生命・地球	75.1	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.9	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	63.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	80.5	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	69.5	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●正答率は、市平均と比べて1.6ポイント低い。 ○グラフから情報を読み取る問題での正答率は市平均よりも高い。特に「水のすがた」の、水を熱したときの温度変化のグラフの理解では、正答率が市平均を16.6ポイント上回っている。 ●「物のあたたまり方」の問題では、どの設問でも市平均を下回っており、課題が見られる。特に、空気のあたたまり方について問われる設問では、市の平均よりも17.6ポイント低かった。	・実験でうまくいかなかったり、目で見て分かりにくかったりする実験の際には「見えにくいもの」を「見える」ようにする工夫をして指導に当たる。5年の学習の「もののとけ方」でも目で見て分かりにくいものがあるので、児童が実感を伴った理科が得られるよう実験を行った上で、分かったことを自分の言葉でまとめることができるように指導を工夫する。
生命・地球	○正答率は、市平均と比べて9.6ポイント高い。 ○「月と星」の問題では、どの設問でも市平均を上回るかほぼ同じであった。半月の動き方の理解を問われた設問では、市平均を18.5ポイント上回った。 ●「自然の中の水」の、自動車の窓が曇る理由を推測する設問では、市の平均よりも19.9ポイント低かった。	・授業で学んだことを生かして考える活動を取り入れる指導を工夫する。予想を立てる際、既習事項と結び付けて根拠を考えさせるようにしたり、学習している内容が日常生活のどんなところにつながっているのかを関連付けたりできるように指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習に関する質問項目では、市の平均を下回るものが多いが、昨年度の当該学習アンケートと比較すると数値は上昇していることから、改善がうかがえる。

●「宿題」と家庭での「復習」に関する項目では、肯定的回答の割合が低い傾向が見られた。宿題の量に関する質問では、40.4%が「多い」と回答し、意欲に関する質問では肯定的回答の割合が市平均と比べて21.3ポイント低い。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の項目でも市の平均より7.1ポイント低い。宿題は例年通りの量・内容であることから、家庭学習の中で授業やテストで間違えた問題を使って自主学習に取り組めるようにしたり、内容や課題の与え方を工夫したりして、復習の習慣化を図っていききたい。

○平日の学校以外の学習時間に関する項目では、1時間以上学習している児童の割合が59.6%で、市の平均を3.4ポイント上回っており、高学年の家庭学習時間の目安の「1時間」を児童に意識させていることで身に付きつつあると考えられる。

●学校が休みの日の学習時間に関する項目では、1時間以上学習している児童の割合が40.4%で、市の平均を13.4ポイント下回っている。土日の課題の与え方を工夫し、毎日1時間以上学習時間が確保できるように指導していききたい。

○授業に関する質問項目では、目標の提示、振り返りの確保、またそれをノートにまとめることに関しての肯定的回答の割合が市の平均を上回っていた。今後も、児童が授業の中で何を学ぶのか見通しを持たせ、振り返る活動を行うことで、学力向上をねらいとした授業づくりを進めていききたい。

○生活習慣に関する項目では、肯定的回答の割合が市の平均と比べて高い。また、「自分は家族の大切な一員であると思う」では97.9%が、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」では87.3%が肯定的回答を示し、市平均を上回っている。これらのことから、家庭での時間が安心して過ごせるものであることがうかがえる。家庭と同一歩調で指導に当たれるよう、引き続き努めていく。

●「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信を持っている」などの自己有用感に関する項目での肯定的回答の割合が市の平均を下回った。普段の生活の中で、できたこと・よかったところを児童自身が自覚できるよう、褒めて認める指導を図るとともに、児童同士で友達のよさを伝え合う活動を継続し、自尊感情の育成に努めたい。

●「時間を上手に使うことを心がけている」の項目では、肯定的回答が市平均を10.1ポイント下回った。時間を考えて、先を見通した行動ができるよう、指導していききたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の項目での肯定的回答の割合は、市平均より11.9ポイント低かった。国語の学習ではもちろんのこと、他教科の学習や家庭学習の中でも、辞書を進んで使うことができるよう、課題の工夫に努めたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習のまとめと振り返りの活動の工夫	・学習のまとめと振り返りの仕方について、職員で共通理解を図り、学習に応じたまとめと振り返りを行う。	・学習のまとめと授業後の振り返りの活動について習慣化が図られてきた。今後、さらに学習効果を高められるよう、学習のねらいに沿った振り返りができるようにしたい。また、自分の考えを伝えることができるよう、まとめたことや振り返りを書いたり伝え合ったりする時間を十分とり、充実していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・読解力、国語辞典の使い方、ことわざや慣用句を正しく使うことに課題が見られた。	語彙力を高める指導の工夫	・辞書の引き方についての理解を深め、辞書引きを通して、物語や説明文の内容理解を深められるようにするとともに、ことわざや慣用句など、様々な言葉に触れる機会をつくっていくなどし、語彙力を高める。